

とくしまの青少年に関する意識調査 報告書（概要版）

令和3年（2021年）9月
徳島県

目次

1 調査の設計

1. 調査の目的	1
2. 調査の事項	1
3. 調査の対象	1
4. 対象者の抽出方法	1
5. 調査の方法	1
6. 調査の期間	1
7. 調査票配布数と回収状況	1
8. 報告書の見方について	1

2 調査の結果

1. 人生観・充実度について	2
2. 家庭・家族について	6
3. 学校生活について	6
4. 地域づくり・地域への愛着について	7
5. 国際交流について	7
6. 就労への意識について	8
7. インターネットについて	8
8. R1国調査「子供・若者インデックスボード」との比較	9
9. 総評	14

1 調査の設計

1. 調査の目的

徳島県の青少年の生活の実態、社会や生き方等についての考えを把握し、今後の青少年施策のあり方を検討するとともに、「とくしま青少年プラン」の次期プランを策定する際の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の事項

計9項目（ご自身について、家庭・家族について、学校生活について、地域づくり・地域への愛着について、国際交流について、就労への意識について、インターネットについて、青少年の健全育成について、生きづらさについて）

3. 調査の対象

徳島県内在住の青少年（12～39歳）：4,100人

4. 対象者の抽出方法

- ①中学・高校・大学生：県内の中学校、高等学校、大学より、無作為に抽出。
- ②その他の青少年：各市町村の選挙人名簿から層化二段無作為抽出法により抽出。

5. 調査の方法

- ①中学・高校・大学生：各学校を通じて配布・回収
- ②その他の青少年：郵送法

6. 調査の期間

令和3年6月上旬～8月上旬まで

7. 調査票配布数と回収状況

有効回収数 2,864 票（有効回収率 69.9%）

8. 報告書の見方について

- (1) 基数となるべき実数は、(n=〇〇)と表示している。各比率はすべてを100%として百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。そのために、百分率の合計が100%にならないことがある。
- (2) 質問文の中に、複数回答が可能な質問があるが、その場合、回答の合計は回答者数を上回ることがある。
- (3) 図中の選択肢表記は、見やすさを考慮し、場合によっては語句を短縮・簡略化している場合がある。また、0.0%の表記は省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
- (4) 一部の調査結果については、平成28年度に本県が実施した同様の調査や、令和元年度・令和2年度に内閣府が実施した調査と比較を実施している。比較対象の調査は下記のように略記する。
 - ・前回調査：平成28年度「とくしま青少年に関する意識調査」（徳島県）
 - ・R1 国調査：令和元年度「子供・若者の意識に関する調査」（内閣府）
 - ・R2 国調査：令和2年度「青少年のインターネット利用環境実態調査」（内閣府）

2 調査の結果

1. 人生観・充実度について

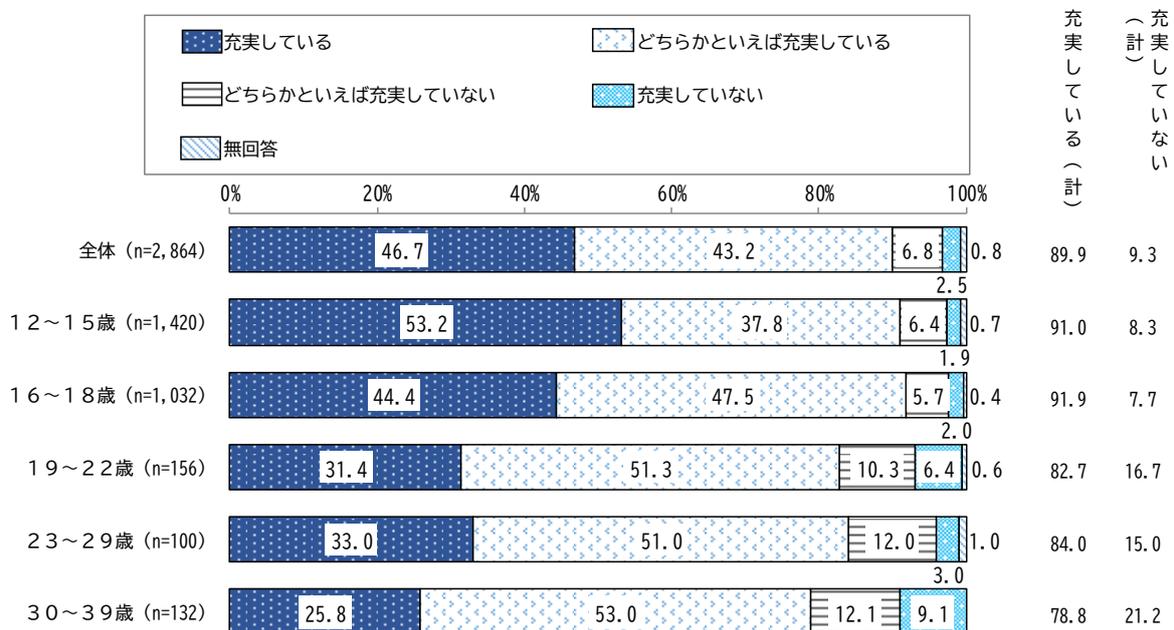
(1) 生活の充実度

問. あなたは、今の生活が充実していると思いますか。あなたの実感をお答えください。(1つに○)

今の生活の充実度について、全体をみると、「充実している」と「どちらかといえば充実している」を合わせた充実層が 89.9%と約9割を占めている。

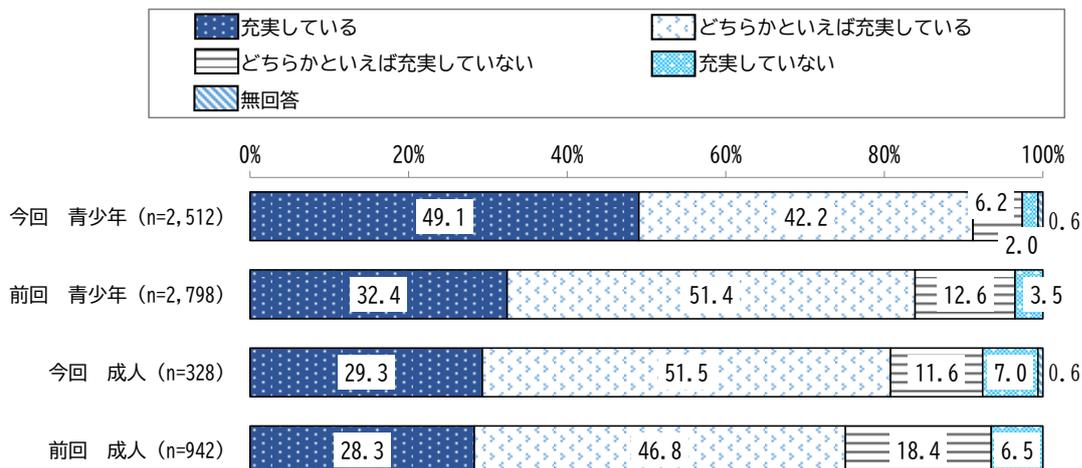
年齢別にみると、今の生活が「充実している」と「どちらかといえば充実している」を合わせた充実層はいずれも7割を超えている。特に12～18歳では充実層が9割を超えており、19歳以上と比べて「充実している」の割合も高くなっている。

【年齢別クロス集計：生活の充実度】



また、前回調査と比較すると、成人では大きな差はみられないが、青少年においては「充実している」の割合が16.7ポイント増加しており、「どちらかといえば充実している」と合わせた充実層の割合も高くなっている。

【前回調査比較：生活の充実度】



(2) 自分自身にあてはまること

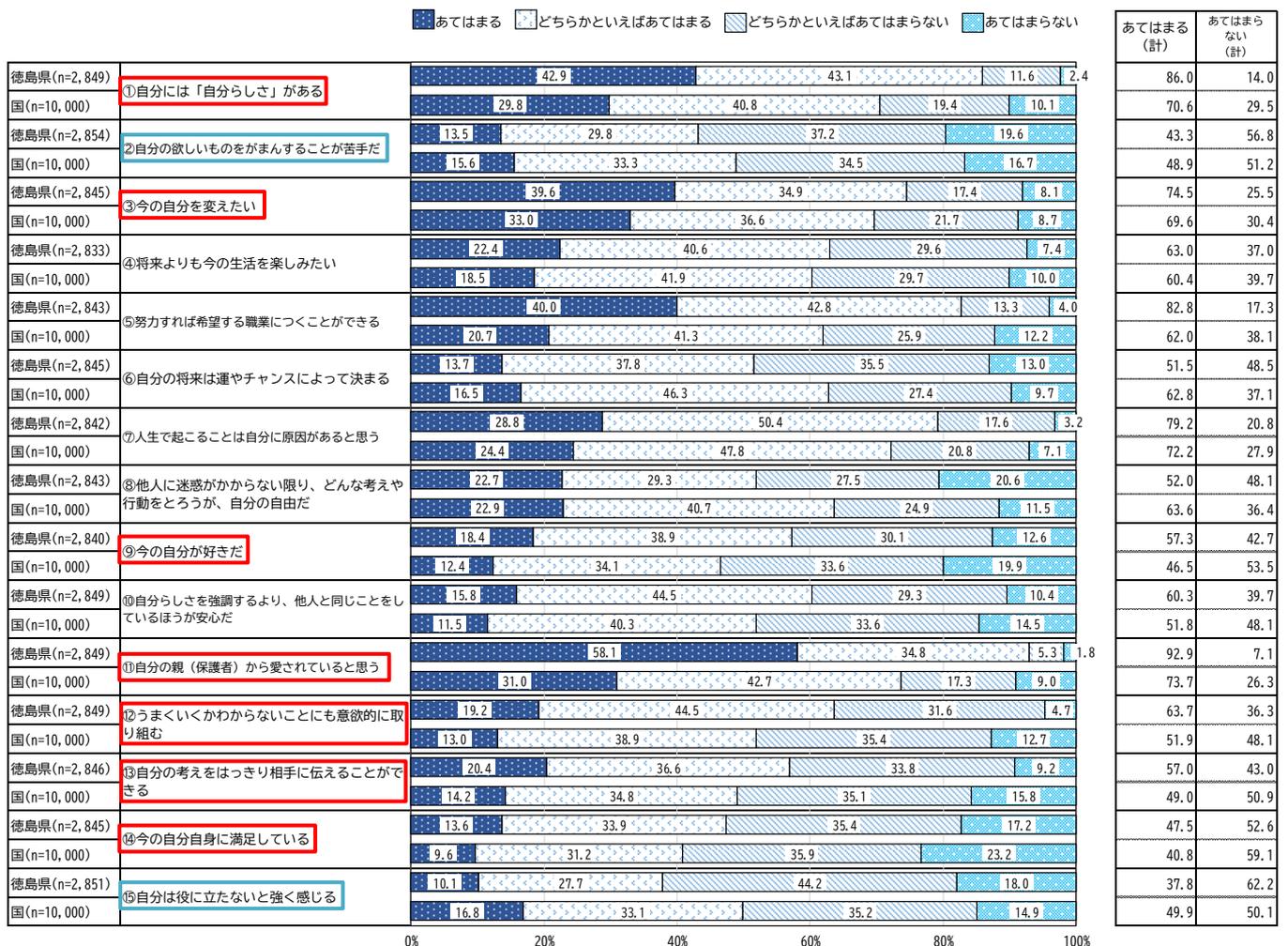
問. あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。(それぞれ1つに○)

自分自身について国調査と比較すると、どの設問についても、ポジティブな考え(①、③、⑨、⑪、⑫、⑬、⑭：グラフ内赤枠)については「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合わせた『あてはまる』の割合が、ネガティブな考え(②、⑮：グラフ内青枠)については「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせた『あてはまらない』の割合が、それぞれ徳島県の方が高くなっている。

中でも「①自分には『自分らしさ』がある」「⑪自分の親(保護者)から愛されていると思う」については、国の調査に比べて『あてはまる』の割合が特に高くなっている。

また、自分の行動や将来についての責任感(⑤、⑦)については、国調査に比べて徳島県の方が、運よりも自分の努力や行動によって決まる、と考えている割合が高くなっている。

【R1 国調査比較：自分自身について】



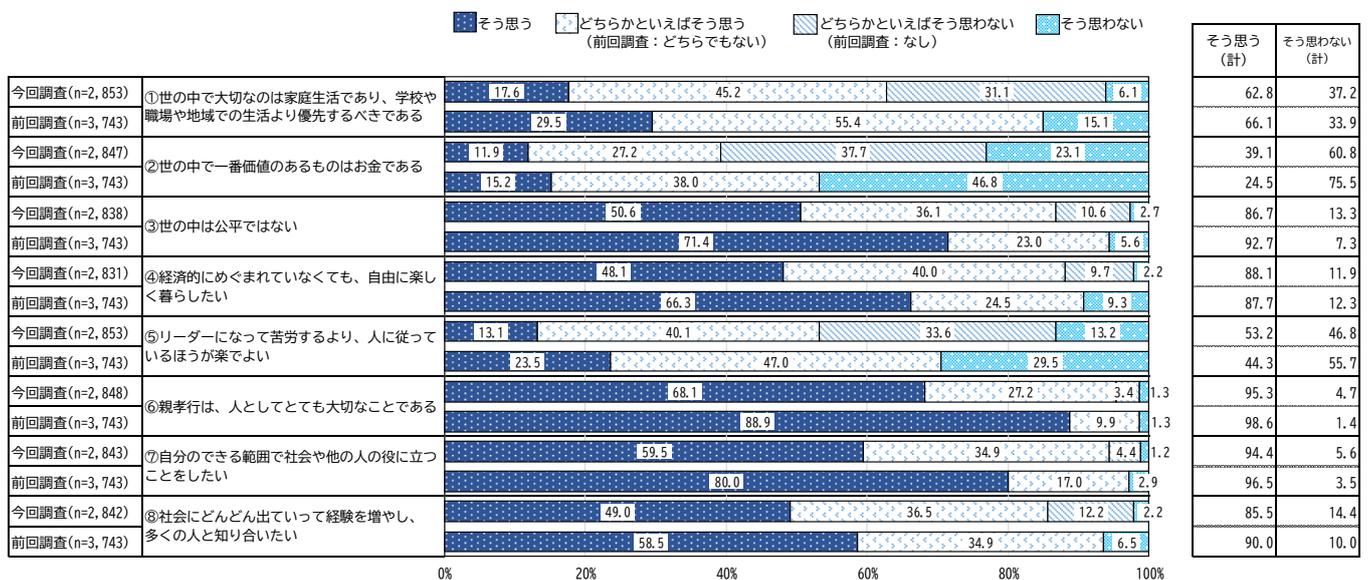
(3) 人生観

問. 次の意見について、あなたはどのように思いますか。(それぞれ1つに○)

人生観に関する設問のうち、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合について、⑥親孝行・⑦社会貢献・⑧積極性の割合はいずれも9割近くとなっており、多くの青少年が親や社会への貢献を重要だと認識していると考えられる。一方で、「③世の中は公平ではない」を『そう思う』と回答した割合も86.7%と9割近くになっており、社会への不公平感を抱えている青少年も多くなっている。

また、設問形式が異なるが、参考として前回調査との比較を行った。その結果、多くの項目は同様の傾向となっているが、「②世の中で一番価値のあるものはお金である」「⑤リーダーになって苦勞するより、人に従っているほうが楽でよい」の2項目において、「そう思う」の割合が高くなっている。新型コロナウイルス感染症関連の報道等の影響で、お金やリーダーに対する考え方が変化している可能性があるかと推測される。

【H28 前回調査比較：人生観について】

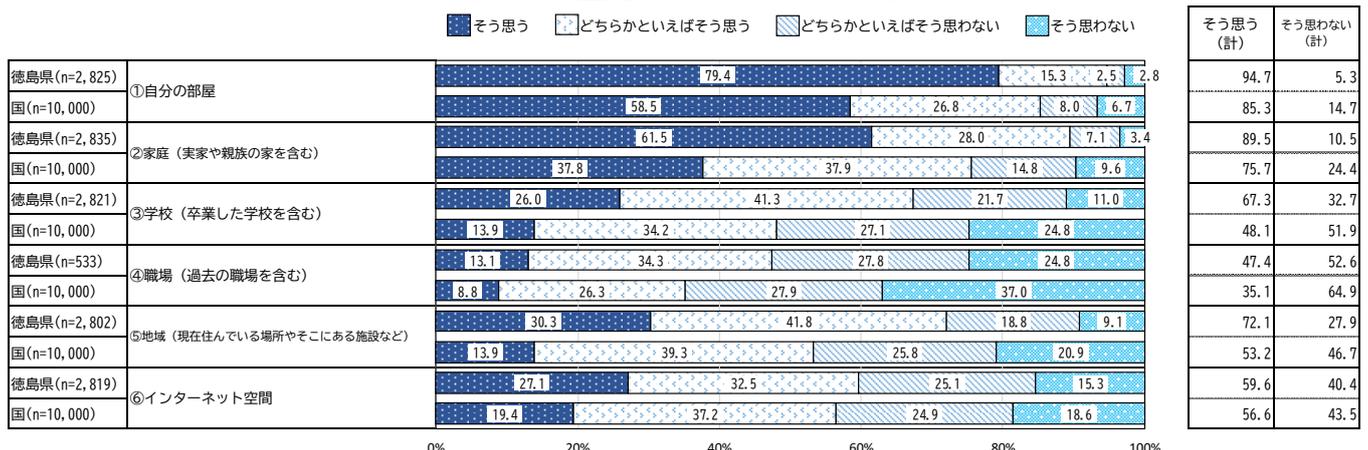


(4) 居場所

問. 次の場所は、今のあなたにとって居場所になっていますか。(それぞれ1つに○)

自分の居場所について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、「自分の部屋」と「家庭」でそれぞれ94.7%、89.5%と、9割近くとなっており、国調査と比較しても、いずれの項目でも徳島県の方が『そう思う』の割合は高くなっている。中でも「学校」「地域」で特に割合が高くなっており、徳島県では、自分の家以外の場所にも居場所があると感じている人が多くなっている。

【R1 国調査比較：居場所について】

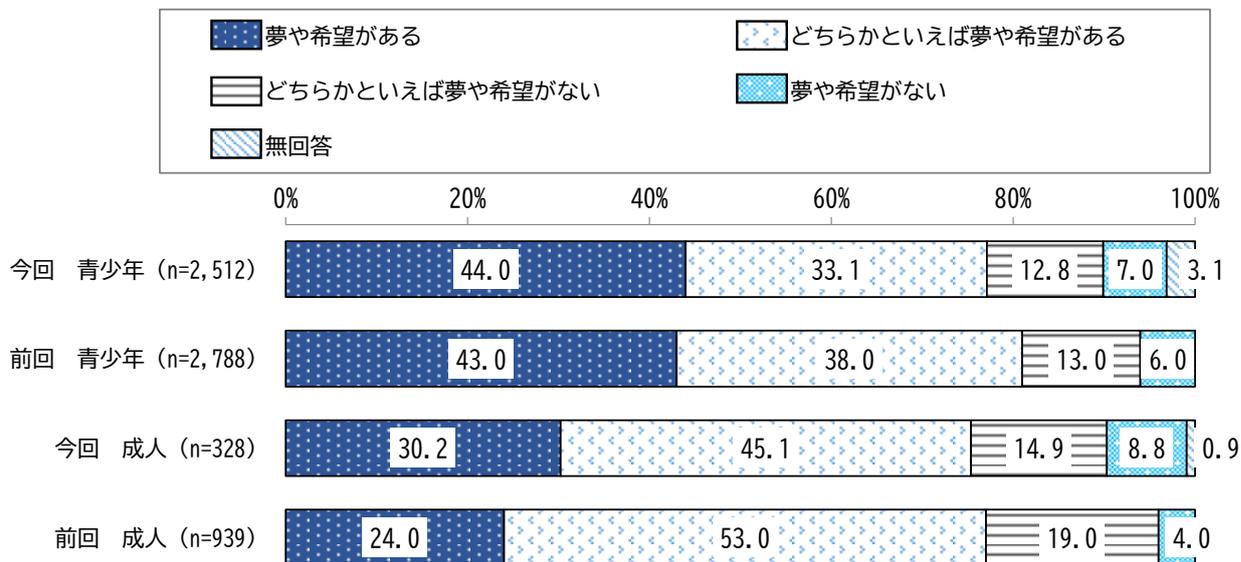


(5) 夢や希望

問. あなたは、自分の将来について夢や希望を持っていますか。(1つに○)

夢や希望について、今回調査の「夢や希望がある」と「どちらかといえば夢や希望がある」を合わせた『希望がある』(青少年 77.1%、成人 75.3%)と、前回調査の『希望がある』(青少年 81.0%、成人 77.0%)との間で大きな差は見られなかった。

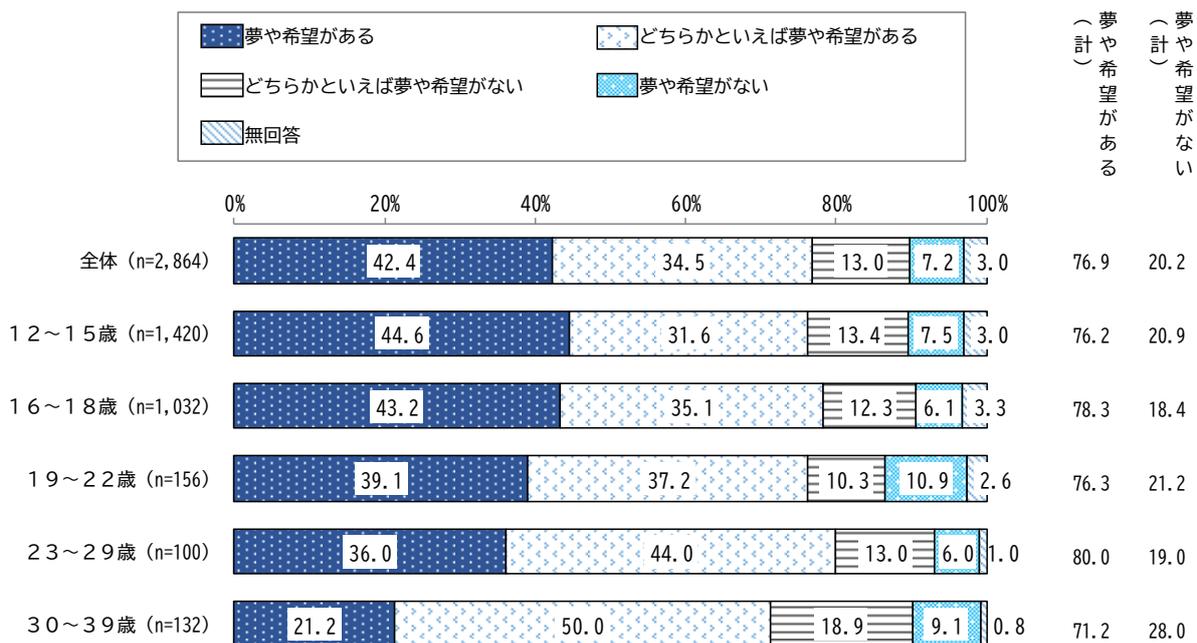
【H28 前回調査比較：夢や希望について】



夢や希望について、全体をみると、「夢や希望がある」と「どちらかといえば夢や希望がある」を合わせた『希望がある』(76.9%)が7割を超えている。

年齢別にみると、『希望がある』はいずれも7割を超えている。23~29歳では80.0%と最も高くなっており、比較的夢や希望を抱いている人が多くなっている。

【年齢別クロス集計：夢や希望について】



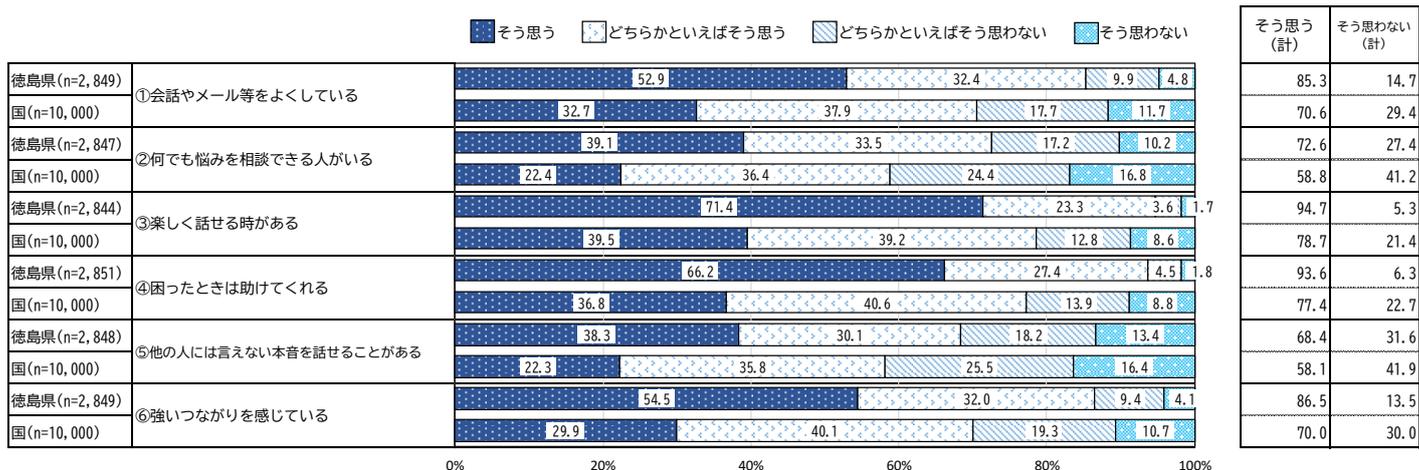
2. 家庭・家族について

問. 家族・親族とあなたのかかわりはどのようなものですか。(それぞれ1つに○)

家族・親族とのかかわり方について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、いずれの項目についても6割以上となっており、特に「③楽しく話せる時がある」「④困ったときは助けてくれる」の2項目は、それぞれ94.7%、93.6%と9割以上になっている。

国調査と比較すると、いずれの項目についても徳島県の方が『そう思う』の割合は高くなっており、全国的な傾向と比べて、徳島県では家族・親族とのかかわりが強いと考えられる。

【R1 国調査比較：家族・親族とのかかわり】



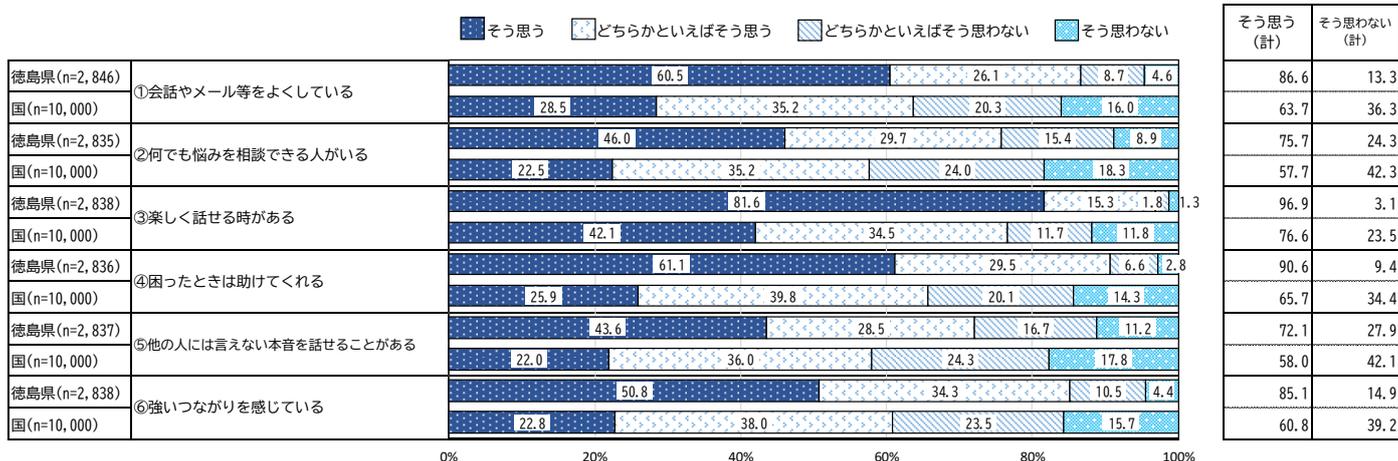
3. 学校生活について

問. 学校で出会った友人（現在通っている学校の友人、かつての同窓生等）とあなたのかかわりはどのようなものですか。(それぞれ1つに○)

学校で出会った友人とのかかわりについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、いずれの項目も7割以上となっており、特に「③楽しく話せる時がある」「④困ったときは助けてくれる」の2項目は、それぞれ96.9%、90.6%と9割以上になっている。

国調査と比較すると、いずれの項目についても徳島県の方が『そう思う』の割合は高くなっており、全国的な傾向と比べて、徳島県では学校で出会った友人とのかかわりが強いと考えられる。

【R1 国調査比較：学校で出会った友人とのかかわり】



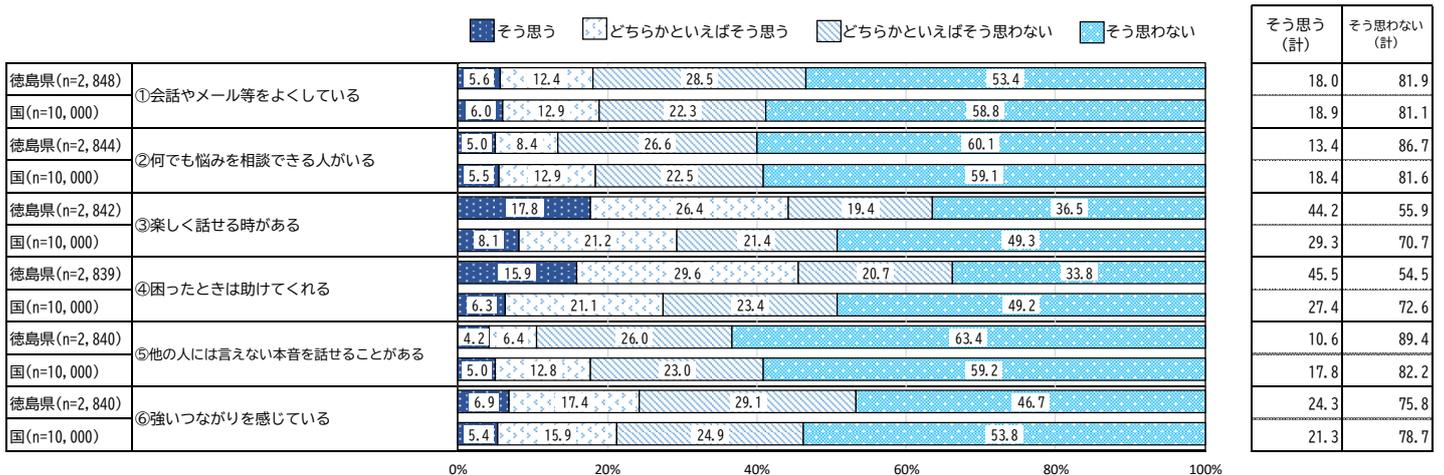
4. 地域づくり・地域への愛着について

問. 地域の人とあなたのかかわりはどのようなものですか。(それぞれ1つに○)

地域の人とのかかわりについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、いずれの項目も半数未満となっており、「③楽しく話せる時がある」「④困ったときは助けてくれる」の2項目は約4割となっているものの、その他の4項目については2割前後となっている。

国調査と比較すると、「③楽しく話せる時がある」「④困ったときは助けてくれる」の2項目は徳島県の方が『そう思う』の割合が高くなっているが、その他の4項目は全国的な傾向と差異はみられなかった。

【R1 国調査比較：地域の人とのかかわり】

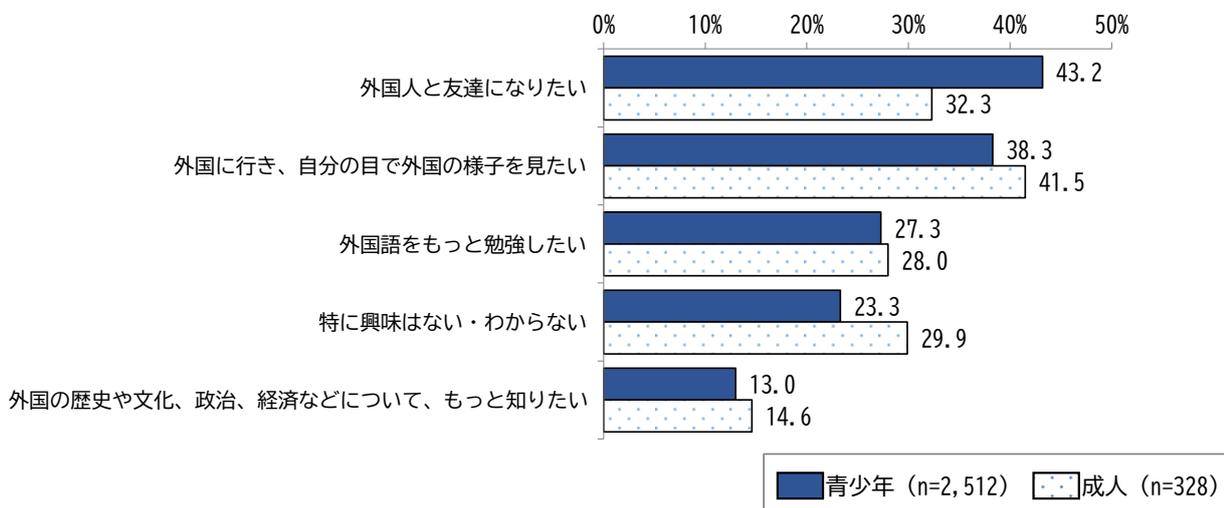


5. 国際交流について

問. あなたは、国際交流についてどう思いますか。(主なもの2つに○)

国際交流への考えについて、青少年では「外国人と友達になりたい」(43.2%)が最も高く、次いで「外国に行き、自分の目で外国の様子を見たい」(38.3%)が続いている。成人では「外国に行き、自分の目で外国の様子を見たい」(41.5%)が最も高くなっている。また、青少年と成人で「特に興味はない・わからない」(青少年23.3%・成人29.9%)の割合を比較すると、成人の方が6.6ポイント高くなっている。

【調査対象別：国際交流への考え ※上位5項目抜粋】



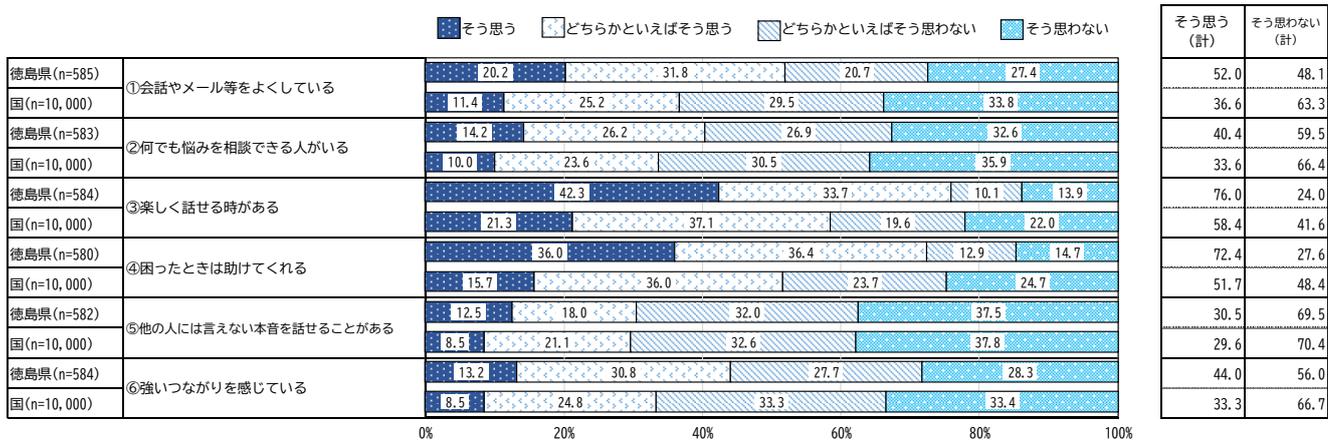
6. 就労への意識について

問. 職場・アルバイト関係の人とあなたのかかわりはどのようなものですか。(それぞれ1つに○)

職場・アルバイト関係の人とのかかわりについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、「③楽しく話せる時がある」「④困ったときは助けてくれる」の2項目で7割以上となっている一方で、「②何でも悩みを相談できる人がある」「⑤他の人には言えない本音を話せることがある」の割合は低くなっており(40.4%、30.5%)、深い付き合いをしている人は半数以下であるといえる。

国調査と比較すると、「①会話やメール等をよくしている」「③楽しく話せる時がある」「④困ったときは助けてくれる」の3項目は徳島県の方が『そう思う』の割合が高くなっているが、その他の3項目は全国的な傾向と差異はみられなかった。

【R1 国調査比較：仕事関係の人とのかかわり】



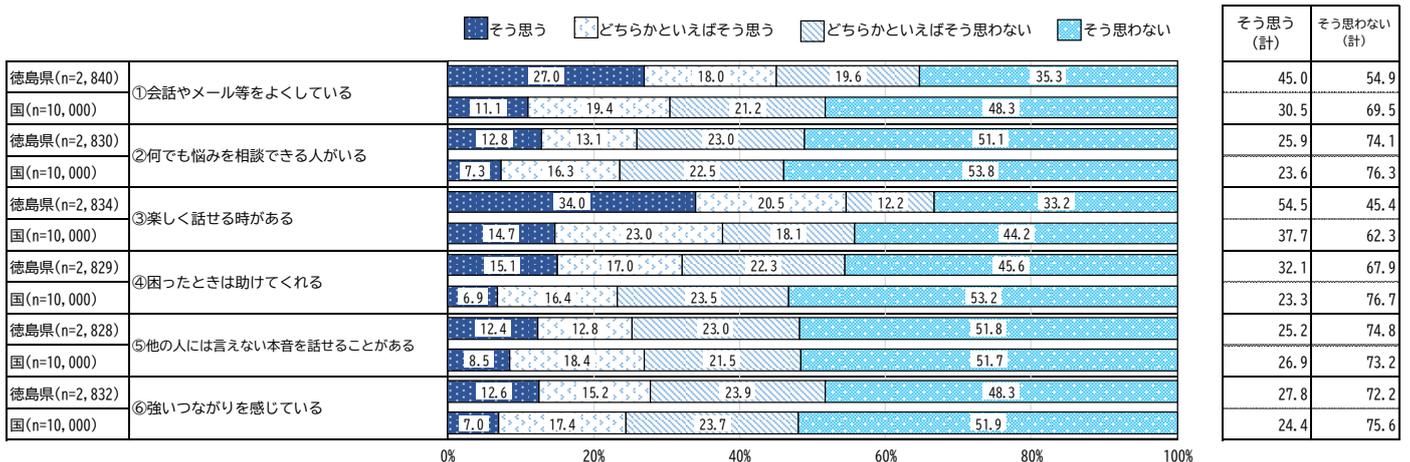
7. インターネットについて

問. インターネット上における人やコミュニティとあなたのかかわりはどのようなものですか。(それぞれ1つに○)

インターネット上における人やコミュニティとのかかわりについて、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合は、「①会話やメール等をよくしている」「③楽しく話せる時がある」の2項目では約半数(45.0%、54.5%)となっているが、その他の項目では3割前後と低くなっており、会話等を楽しむことはあるが、悩みや困りごとを相談する人は多くないことがわかる。

国調査と比較すると、「①会話やメール等をよくしている」「③楽しく話せる時がある」の2項目は徳島県の方が『そう思う』の割合が高くなっているが、その他の4項目は全国的な傾向と差異はみられなかった。

【R1 国調査比較：インターネット上での人とのかかわり】



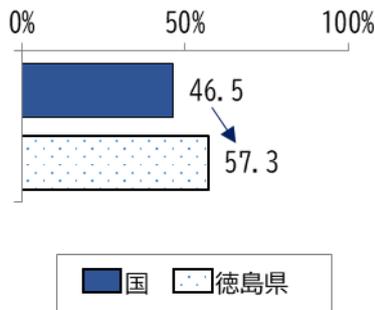
8. R1 国調査「子供・若者インデックスボード」との比較

内閣府が「子供・若者インデックス」名付けてまとめている、子供・若者の生育状況等に関する各種指標について、今回調査の結果から算出した指標と、R1 国調査に基づいた指標との比較を行った。

(1) 自己について

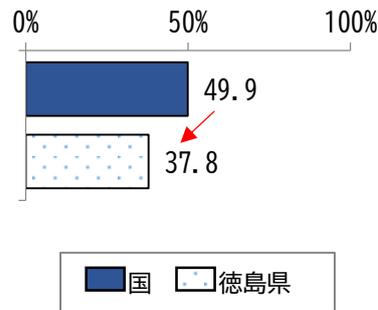
【自己肯定感】

今の自分が好きだ



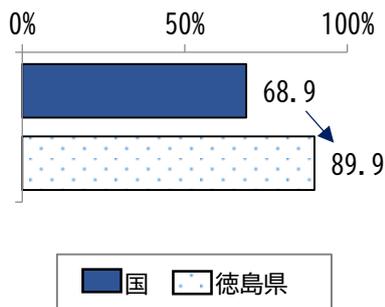
【自己有用感】

自分は役に立たないと強く感じる



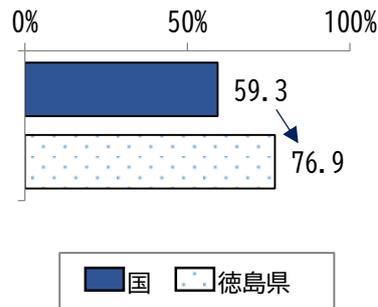
【今の充実感】

今の生活が充実している



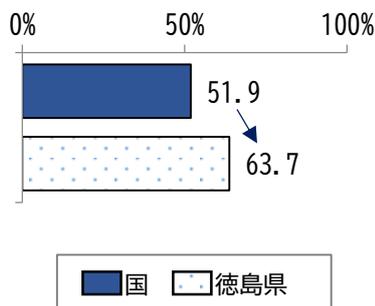
【将来への希望】

自分の将来について明るい希望を持っている



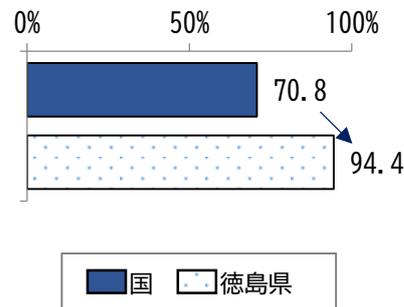
【チャレンジ精神】

うまくいかわからないことにも
意欲的に取り組む



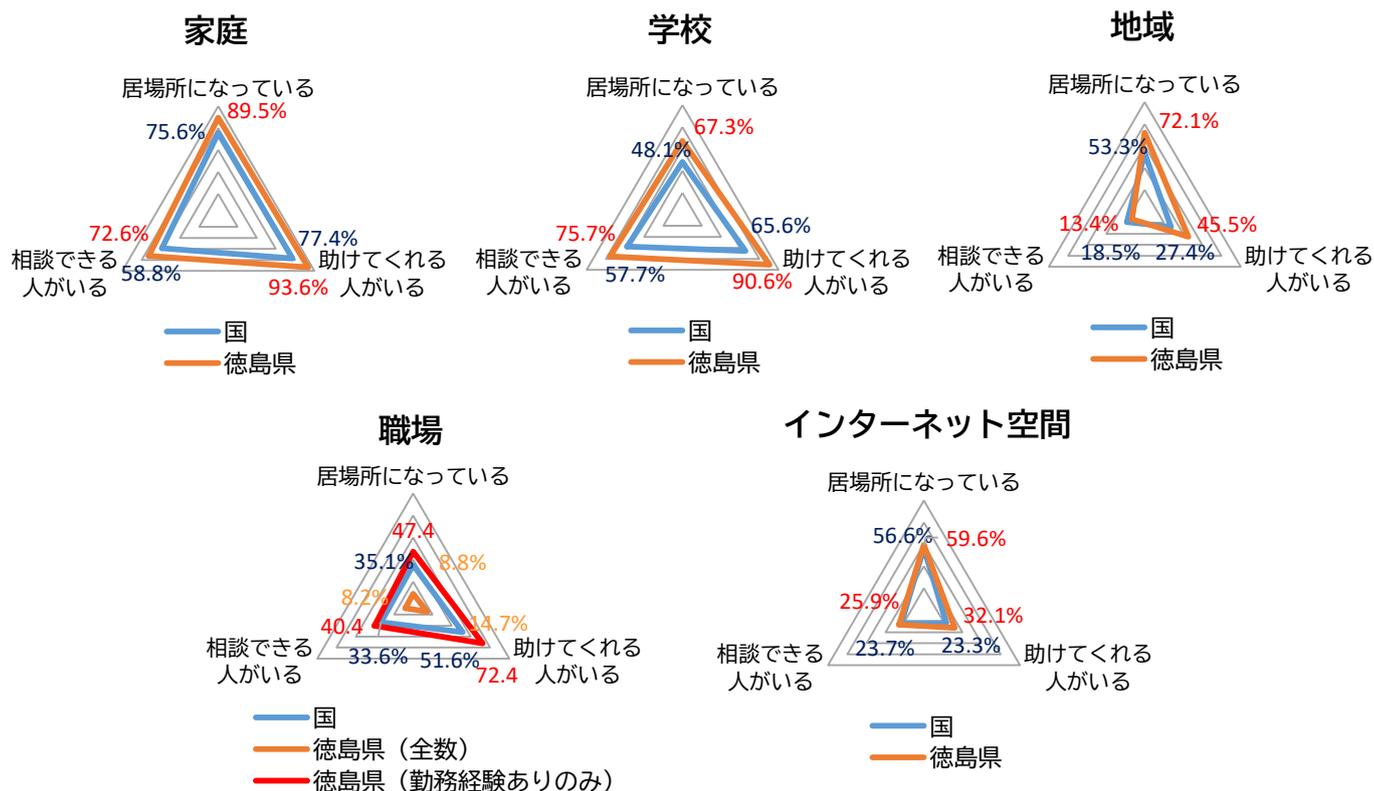
【社会貢献意欲】

社会のために役立つことをしたい



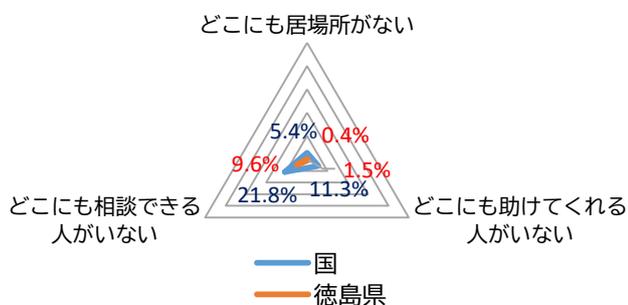
自己に関する6項目については、国調査と比較すると【自己有用感】を除く5項目で、徳島県の方が割合が高くなっており、国調査との差は【社会貢献意欲】で23.6%と最も大きく、次いで【今の充実感】(21.0%)、【将来への希望】(17.6%)、【チャレンジ精神】(11.8%)、【自己肯定感】(10.8%)の順になっている。【自己有用感】については、設問の回答割合が低いほど自己有用感が高いといえる。国調査よりも回答割合が12.1%低いことから、自己有用感についても全国的な傾向に比べて高いといえる。

(2) 周囲について



※国は全数で割合を算出しているが、国調査に比べて学生の割合が高いため、参考に勤務経験がある方だけの割合も示している。

いずれも該当なし



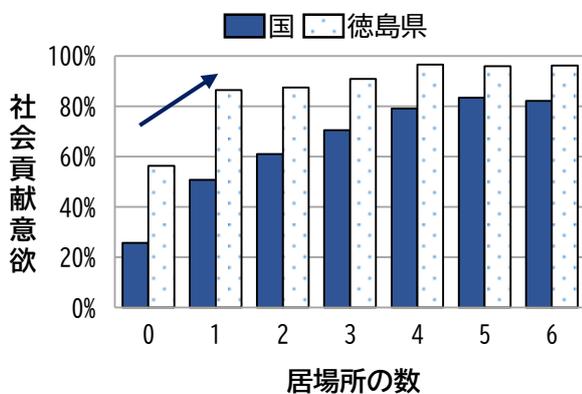
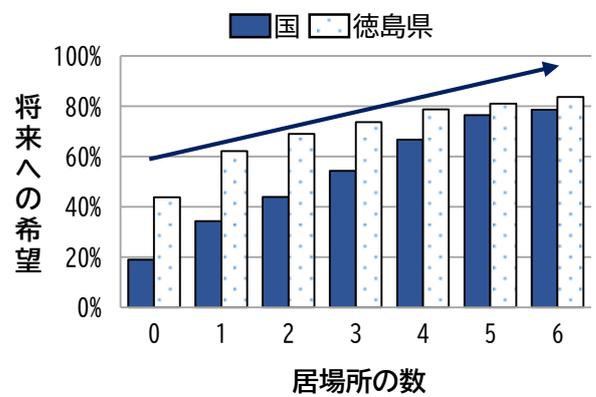
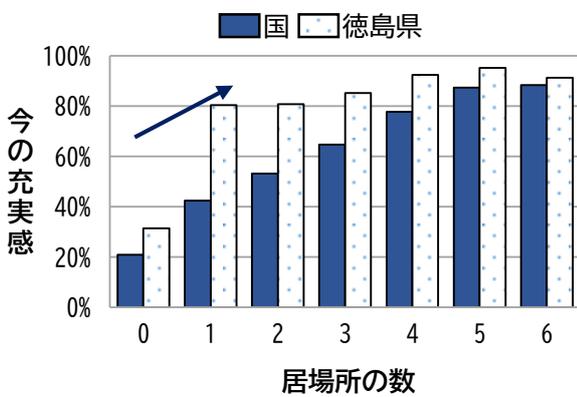
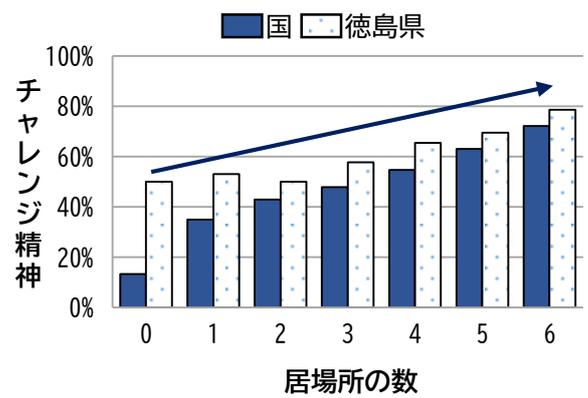
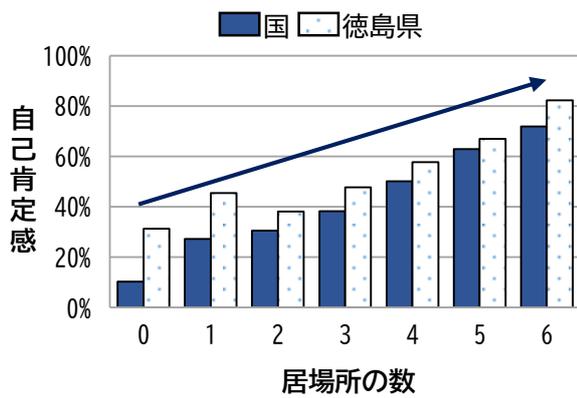
国調査と比較すると、「居場所になっている」「助けてくれる人がいる」については、【職場】を除く5項目で、徳島県の方が割合が高くなっており、国調査との差は【学校】【地域】で特に大きくなっている。

「相談できる人がいる」については、【家庭】、【学校】で国調査の割合を大きく上回っており、その差はそれぞれ13.8%、18.0%となっている。一方、【地域】、【職場】は国調査と比べて割合が低く、その差はそれぞれ5.1%、25.4%となっている。

また、6項目いずれについても、居場所になっていない、相談できる人・助けてくれる人がいないと回答した【いずれも該当なし】の割合は、国調査に比べていずれの項目も低い割合となっている。要因として、自分の部屋や家庭以外にも、学校や地域といった、家の外に居場所がある・頼れる人がいる人が徳島県では多いことが考えられる。ただし、国調査と同様、相談できる人がいないと回答した割合が他2項目よりも高くなっている。

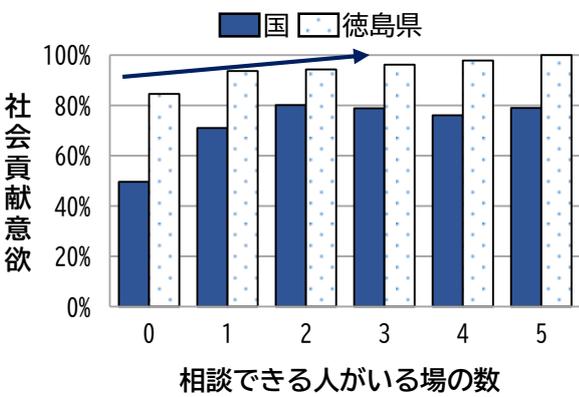
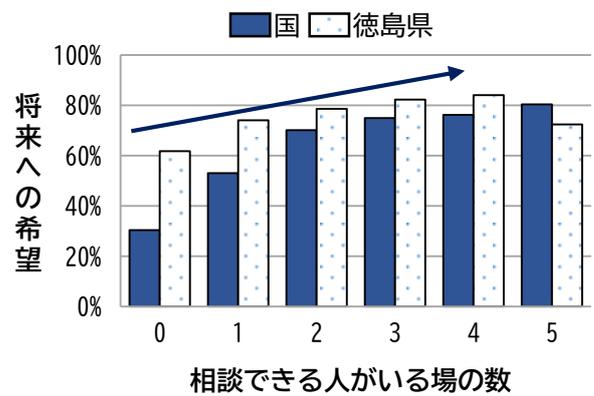
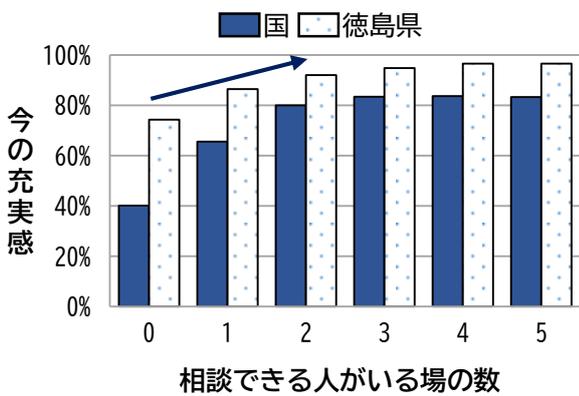
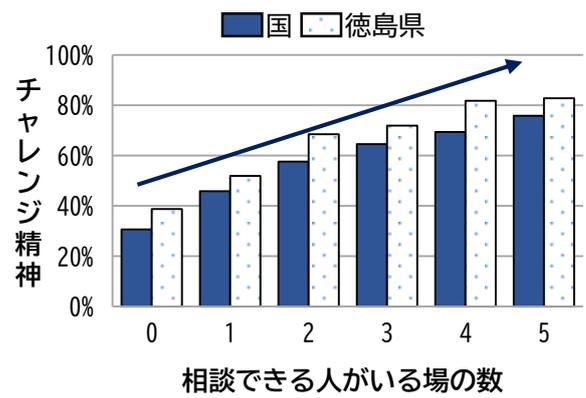
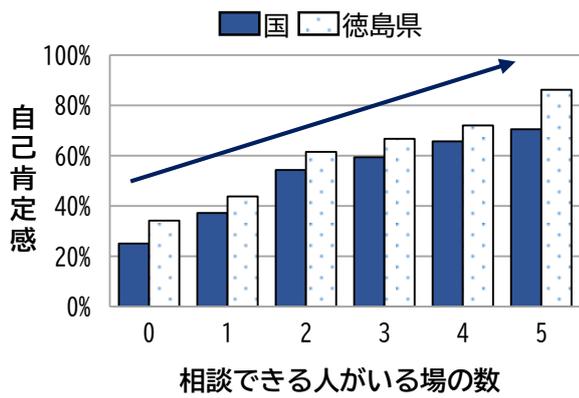
(3) 周囲の環境と自己認識の関係

①居場所の数と自己認識の関係



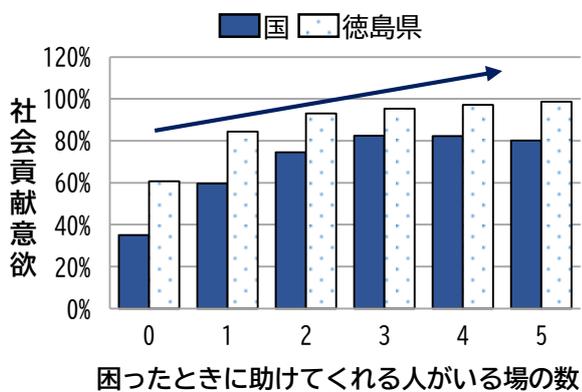
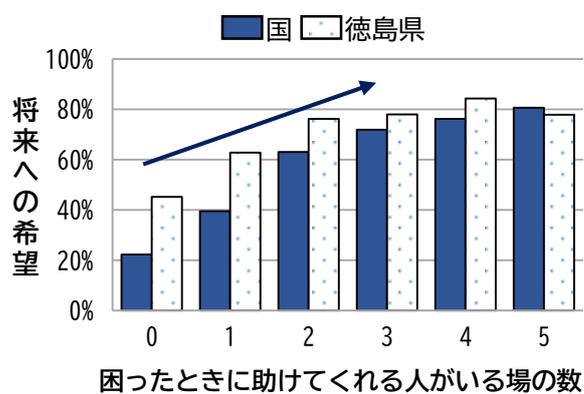
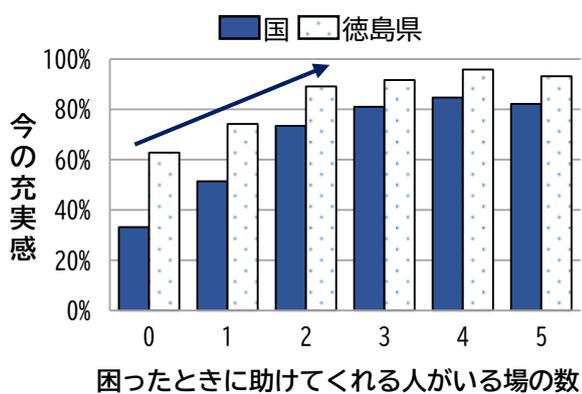
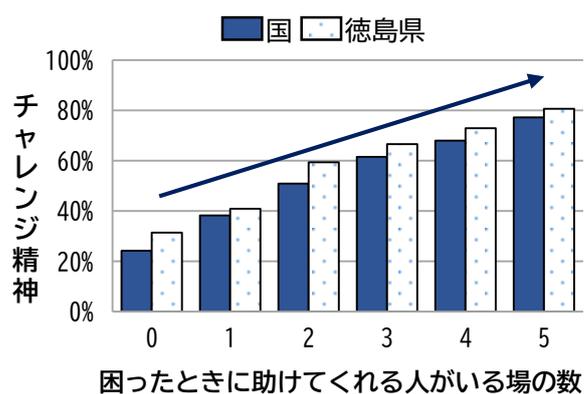
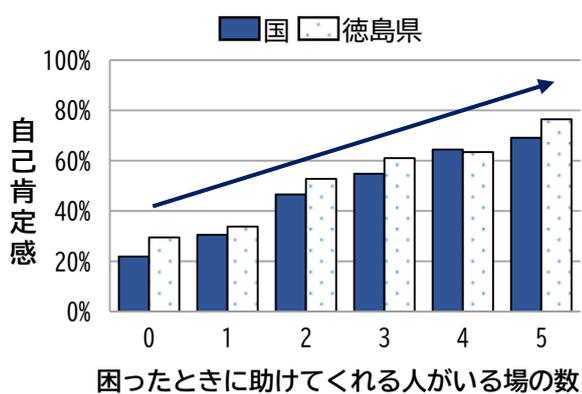
居場所（自室、家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の前向きさは、一部の項目で国調査ほど顕著ではないものの、徳島県においても概ね相関がみられる。また、「今の充実感」や「社会貢献意欲」では、居場所がない人と、居場所がある人（1以上の人）で大きな差がみられる。

②相談できる人がいる場の数と自己認識の関係



相談できる人がいる場（家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の前向きさは、国調査と同様、徳島県においても概ね相関がみられる。

③困ったときに助けてくれる人がいる場の数と自己認識の関係



困ったときに助けてくれる人がいる場（家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の前向きさは、国調査と同様、徳島県においても概ね相関がみられる。

9. 総評

◎ 生活が充実していると回答した割合は高くなっている ◎

生活が「充実している」、「どちらかといえば充実している」と回答した割合は合計すると9割近くとなっており、前回調査と比べても高い割合となっている。

一方で、夢や希望についての設問では「夢や希望がある」、「どちらかといえば夢や希望がある」と回答した割合は、合計で76.9%と、決して低い割合ではないものの、生活の充実度に比べると低い割合となっている。また、夢や希望についての設問では、前回調査の結果と大きな差はみられなかった。

◎ 居場所・相談できる人・助けてくれる人がいる割合が高くなっている ◎

どこにも居場所がない・どこにも相談できる人がいない・どこにも助けてくれる人がいない、と回答した人の割合は、国調査と比較するといずれも低くなっており、徳島県では、居場所や相談相手、助けてくれる人がいる青少年が大半を占めている。要因として、学校や地域といった、家庭以外に居場所や相談相手がいると回答した割合が高くなっていることが考えられる。

ただし、どこにも居場所がない・どこにも相談できる人がいない・どこにも助けてくれる人がいない、という回答も一定数あり、特に相談できる人がいないという回答は約1割となっており、全国的な傾向に比べると低いとはいえ、対策を検討していく必要がある。

◎ 自己肯定感やチャレンジ精神等の指標が高くなっている ◎

自分自身についての設問で、自己肯定感に関する設問（自分には「自分らしさ」がある、今の自分が好きだ、今の自分自身に満足している）や、チャレンジ精神に関する設問（うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む、自分の考えをはっきり相手に伝えることができる）等において、いずれも国調査に比べて「あてはまる」の割合が高くなっている。反対に、ネガティブな設問（自分の欲しいものをがまんすることが苦手だ、自分は役に立たないと強く感じる）においては、「あてはまる」の割合が低くなっており、自己肯定感だけでなく、自己有用感等の指標でも、国調査に比べて高くなっている。

要因として、自分の親（保護者）から愛されていると思っている割合や、家庭以外にも居場所があると思っている割合が高いことが考えられる。これら青少年を取り巻く環境を、引き続き良好なものにしていく必要があると考えられる。

◎ 新型コロナウイルス感染症が、人生観に影響を及ぼしている可能性がある ◎

人生観についての設問では、親孝行・社会貢献・積極性の項目において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合が約9割となっており、特に社会貢献意欲については、国の指標に比べて20ポイント以上高くなっている。

一方で、「世の中は公平ではない」を「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合も約9割となっている他、前回調査に比べて、「世の中で一番価値のあるものはお金である」「リーダーになって苦勞するより、人に従っているほうが楽でよい」の2項目で、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっている。新型コロナウイルス感染症関連の報道等の影響で、不公平感やお金、リーダーに対する考え方が変化している可能性があると推測される。